



高校生開発のアジカレーを提供

■ 6月27日、水産高校食品工学科の生徒が開発に取り組んでいる「アジカレー」の試作品を、子ども食堂「にんぎまんま」で提供しました。訪れた人たちは、アジのうま味が詰まったカレーを味わいました。



今年も水難事故が起きないことを願って

■ 7月2日、山下公民館で水難事故への注意喚起と水の恵みに感謝する行事「水神講」が行われました。住民の皆さんは、神事後、花渡川や地域の井戸等を米と塩、焼酎で清め、水難事故が起きないように祈りました。



梅雨を彩る「雨フェス」開催

■ 枕崎お魚センターで、梅雨限定イベント「雨フェス」が開催されました。館内には色鮮やかな傘を飾った「虹色のトンネル」が登場。かつお節削り体験やニューススポーツ体験なども行われ、多くの来場者でにぎわいました。



地域の方と楽しむ七夕飾り作り

■ 7月4日、枕崎地区公民館主催の青少年講座「星に願いを～七夕飾りを作ろう～」が枕崎小学校体育館において実施されました。子どもたちや保護者、地域の方が集まる初の試みで、70名が七夕飾り作りを楽しみました。



世界で活躍する太鼓奏者が高校で講演 ～「好きこそものの上手なれ」をテーマに、挑戦する大切さを伝える

7月6日、枕崎高校で「太鼓芸能集団 鼓童」に所属する本市出身の平田裕貴さんによる講演会が開催されました。当日は枕崎高校生のほか、立神中学校の生徒、保護者、地域の方など多くの人が来場しました。

平田さんが所属する鼓童は、日本の伝統芸能を現代に再創造し、新しい舞台表現を創りだしているグループとして、世界各地で高い評価を得ています。

講演は「好きこそものの上手なれ～欲しいものは取れ！！～」を演題に、自身の経験や鼓童での活動を紹介。好きなことに打ち込むことの大切さや、自ら行動して目標をつかみ取ることの重要性について語りました。また、講演の合間には平田さんの太鼓演奏も披露され、迫力ある音色に会場は大きな拍手に包まれました。参加者は、世界を舞台に活躍する平田さんの言葉と演奏に熱心に耳を傾けていました。



100歳の誕生日を迎えました ～中俣ノリさん(白沢東町)

6月24日に中俣ノリさんが、めでたく100歳の誕生日を迎え、市と社会福祉協議会から花束と祝い金が贈られました。

枕崎市出身の中俣さんは、3人の子どもの恵まれ、若い頃は酒造会社で働いていました。畑仕事が趣味という中俣さんの長生きの秘訣は「畑の草むしりなどで、体を動かすことです」と話します。

これからも元気で長生きしてください。



投稿 創立101年目新たな旅立ち ～投稿者：枕崎高等学校同窓会関東支部会長 山崎耕さん

枕崎高等学校同窓会関東支部では、6月27日、東京都品川区内の三州倶楽部において、創立101年目を迎えた同窓会を開催しました。大変な悪天候の中、30数名の方々にご出席下さり、外の悪天候を吹き飛ばすくらいの盛り上がりを見せお互いの絆が深く結ばれたとても有意義な同窓会となりました。

冒頭、関東支部長の掛け声により参加者一同で足をばっと前に踏み出して創立101年目への第一歩を力強く踏み出しました。まさに歴史的な瞬間で母校の歴史に足跡を残した生き証人として感慨深いものがありました。



投稿 第33回東海枕崎会総会を開催 ～投稿者：東海枕崎会会長 森孝治さん

7月5日、第33回東海枕崎会総会を名古屋市内で開催しました。会員をはじめ、多数の来賓、友好団体、多彩なゲスト、その数総勢93名が出席し、総会は滞りなく終了しました。

懇親会では、恒例のじゃんけん大会とラッキープレゼント抽選会を行い、多くの賞品を前に会場は大いに盛り上がりをみせ、世代を超えて語り合い、新たな交流も生まれるなど、東海枕崎会ならではの温かな懇親の場となりました。

東海枕崎会では、これからもふるさと枕崎との絆を大切にしながら、会員相互の親睦を深め、次の世代へとつないでいける会づくりに努めてまいります。



南湊館で「くっきー!乙女展in枕崎」開催中 ～くっきー!氏ならではの世界観を会場で

7月26日から、南湊館で「くっきー!乙女展in枕崎」が開催されています。初日にはオープニングセレモニーが行われたほか、市民会館では、くっきー!氏によるトークイベントが開催され、会場を盛り上げました。

今回の特別企画展は、独創的な発想から生まれた個性豊かな作品を楽しめる貴重な機会です。くっきー!氏ならではの世界観を、ぜひ会場でお楽しみください。

※会期は8月30日(日)までとなっています。



鹿児島レブナイズの選手に学ぶ ～市内小・中学生を対象にバスケットボール教室を開催

7月18日、プロバスケットボールチーム「鹿児島レブナイズ」によるバスケットボール教室が開催され、市内の小・中学生42名が参加し、プロのお手本を間近に見ながらの練習に、子どもたちは目を輝かせていました。